

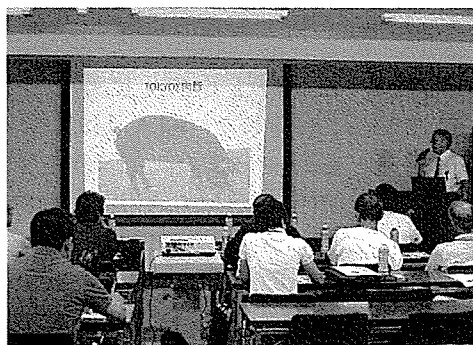
## ○ TOKYO X が東京麺組合でセミナー、ご当地グルメでの活用拡大を図る

東京のブランド豚肉である「TOKYO X」の生産、流通、販売店らで組織する「TOKYO X-Association」(植村光一郎会長、以下アソシエーション)はこのほど、東京・青梅市内開かれた東京麺組合西多摩支部青年部主催の勉強会に参加し、同青年部会員らに TOKYO X の美味しさ・特徴をアピールした。これは、今年5月に開かれた大多摩B級グルメグランプリで同西多摩支部が「TOKYO X 肉うどん」でゴールドグランプリを獲得したのを機に青年部が企画したもの。TOKYO X への理解を深め、「TOKYO X 肉うどん」を通じて地域振興を図ってゆくことがねらい。当日は、西多摩支部の店舗オーナーなど30人が参加した。

勉強会では、植村会長が TOKYO X について▽グーグルで検索すると3億件以上のヒットがあり、多くの人に関心を持っていること▽販売開始がバブル崩壊の真ただ中で、その中にも多くの支持を得てきたことは現在の不況下の中でも競争力があること▽日本食の麺文化は素材の吟味と香りのダシを最も大切にしており、TOKYO X の究極の風味や芳香のある旨みは、その麺文化と大きな相乗効果をもたらすことができると強調した=写真。そのうえで「TOKYO X の精肉での販売店は拡充しているが、直に食べられる飲食店は少なく、料理として提供していただける麺組合には大いに期待している」と述べた。また青梅商工会議所地域振興部の大野哲明係長からは、ゴールドグランプリ獲得を紙媒体のみでなくスマ

ートフォンも含めた宣伝媒体として地域振興の足掛かりにしてもらいたいと地域振興に期待を示した。そのほか勉強会では TOKYO X を使ったメンチカツやとんかつ、マリネが紹介。西多摩支部青年部から地域の食材を使って業界の発展を推進するという力強い方針が示された。

TOKYO X アソシエーションでは、これまで TOKYO X の美味しさの背景にある生産者のこだわりなどを消費者などに周知してきたが、今年度から地元東京との関わりを深め、観光客相手のメニューや土産物への利用など地域振興や観光産業との連携にも力を入れている。植村会長は『「TOKYO X 肉うどん」のゴールドグランプリ受賞をきっかけに、TOKYO X を使いたいという飲食店が増えている。消費者から『どこで TOKYO X が食べられるか』とい



問い合わせが増えており、こうした飲食店での広がりによって地域

振興だけでなく、東京を訪れた観光客も TOKYO X の美味しさを実感してもらい良い機会になる」と今後の展開に高い期待感を示している。

## ○ 日吉ファームに最優秀賞、ミートプラザタカノが購入—南港市場豚枝肉コンクール

大阪市食肉市場は7日、第7回南港市場豚枝肉コンクールを開いた。上116頭をはじめ254頭が出品され、最優秀賞には日吉ファームの出品豚が選ばれた。ミートプラザタカノが単価1,300円で購買した。

その他の受賞者と購入単価、買受人は次の通り。

▽優秀賞1席=東原畜産、単価921円、ミートプラザタカノ▽優秀賞2席=丸永、単価910円、ミートプラザタカノ▽優良賞=上田養豚場、単価465円、北辰ミート▽同=阪神畜産、単価429円、ヨネダフーズ▽同=奥野畜産、単価422円、早水商店▽特別賞=関紀産業、単価571円、荒木畜産。

## ○ プリマハム10月1日付人事異動

プリマハムは10月1日付で次の人事異動を行う。

▽総合企画室長補佐(みずほコーポレート銀行グループ人事部付審議役)内山高弘。